

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100681		
法人名	特定非営利活動法人シルバーの森夕照苑		
事業所名	シルバーの森夕照苑		
所在地	大津市秋葉台6番9号		
自己評価作成日	平成23年8月20日	評価結果市町村受理日	平成23年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2570100681&SCD=320&PCD=25>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成23年9月2日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で四季の行事や季節感のある生活を営んでもらう。  
利用者さんにとって食事は日々の大きな楽しみである。旬の食材を中心に栄養価や美味しさを考慮、工夫し、利用者さんに満足される食事の提供を行っている。  
また、理念である「私らしく穏やかに暮らす」を大切に、ご家族や地域の方々、職員等で協力しながら、1人1人のケアに取り組み、穏やかな日々を過ごしてもらえよう努めている。  
外部研修にも積極的に取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の生活がよく分かるカラフルな「夕照苑だより」を毎月30部ほど発行し家族だけでなく、行政や自治会の回覧でも広報してもらい、地域での事業所の理解が進んでいる。近隣の住民が運営推進会議の議事録署名人になるなど運営に参画し、苑の忙しい時間帯には見守りに来てくれるような協力を惜しまない関係ができています。利用者は趣味や特技を披露したり、できる仕事を分担したりして暮している。一人ひとりをよく知った職員の気配りにより、利用者の不安は軽減しリビングに集まり寛いでいる表情は明るく穏やかである。少人数で共同生活をし残存能力を発揮する事により認知症の進行を抑えその人なりの尊厳ある生き方ができることを目指し、それにほぼ成功している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議では毎回、理念を踏まえたケアが出来ているかを取り上げ検討している。利用者さんへの対応で困ったときは原点に戻り、利用者さんと理念とを重ね合わせて、その方にとって「私らしく穏やかに暮らす」とはどういう事かを考えている。	職員はその人なりの望ましい暮らしを理念に戻って考え、地域とのつながりを大切にしながら利用者の好きな事できる事をして貰っている。理念を夕照苑だよりや近況報告のタイトルにも添え、地域や家族に周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に利用者さんに参加していただくよう努めている(カラオケ居室、発表会)。また、自治会活動には事業所として参加している。毎月発行している「夕照苑だより」を自治会の回覧に入れてもらっている。	自治会などの行事だけでなく、近隣の住民とは日常的な付き合いがあり利用者の名前も知って貰っている。帰宅願望などで外へ出た場合でも、帰りたい気持ちを紛らわすような言葉をかけて連れ戻してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買い物、散歩、地域行事へ参加時、認知症の方が穏やかに暮らしておられる姿を見ていただき、地域住民の方々にグループホームの存在を知ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で困ったことが発生したとき、運営推進会議で相談し、解決の糸口を見つけ、運営に反映するよう努力している。重度の認知症のため落ち着かれない方について相談したところ人手の少ない時間帯に見守りに来てくださる方ができた。	2ヶ月に1回開催し、運営上の多岐にわたる課題を解決する場として有効に機能している。議事録は生々しい議論を克明に記録している。職員には管理者が必要と思う事だけを伝えている。輪番の家族は欠席が多い。	日程等も配慮して引き続き家族の参加を求めて欲しい。全職員に議事録そのままを回覧する方がよい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市と事業所間の報告にとどまらず、アドバイスや指導を求め、よりよいグループホームづくりを目指している。 現在の地に本事業所を移転するに当たり、市の担当課に場所やその他のことなどを相談した。	大津市介護保険課担当者が窓口であり、家族の責任、値上げの問題、火災警報装置の補助金、利用者の難しい問題行動など解決に困った課題を相談し指導して貰っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みは当然のこととして、職員には徹底している。拘束をしなくても安全確保が出来るよう努力、工夫をしている。ベッド柵を使用するときは1点柵を使用している。玄関には鍵を掛けていないが、ご家族の希望で玄関にセンサーを設置している。	拘束ゼロの研修を受けた職員は事業所内で都度伝達研修をして徹底している。玄関はいつも開放している。帰宅願望が強い時には無理に連れ戻さず職員が一巡り付き合う事にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待防止に関する理解を深められるよう外部研修を利用している。また、日常的に言葉や態度による虐待も見逃さないよう、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員を研修会に参加させたり、利用者後見人には、担当者会議に参加いただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に1つ1つ丁寧に説明し、ご家族に確認しながら、同意を得たうえで契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設置していないが、意見箱を事務所の横に設置している。また、家族からの意見は真摯に受け止め、改善の方向につなげている。重度の利用者が窓から布団など大きな物を投げられるので、ご家族と相談の上、部屋替えをした。	家族来訪時に意見要望を聞いている。意見は素直に検討しサービス改善につなげている。苦情申し立て先は管理者以外に3カ所の公的機関の窓口と電話番号を重要事項に記し説明している。	普段来訪のない家族にも気軽に来てもらい、家族同士の交流の場を作るために、お花見などの行事の時に家族を招待して欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、必ずスタッフが全員参加して会議を行っている。その時、活発な意見が出されるので、それを元に改善するようにしている。特に、勤務体制については、職員の希望をできるだけ聞くことにしている。	毎月のスタッフ会議で職員は率直に意見を出している。職員が管理者にいつでも何でも言える雰囲気になっている。管理者は利用者の事を一番知っているのは職員であると思っていて、提言は素直に聞いて取り上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者自身も介護の現場に入り、スタッフと同じ目線で仕事を行い、職員1人1人の性格を知り、明るい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県、市主催の外部研修に参加している。内部研修では、栄養のバランス、防火訓練、徘徊時の対応や薬に関する研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所としては、淡海グループホーム連絡協議会に入って交流している。現在は、他施設との交流は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の方の不安とか、本人がどうして欲しいかの要望を知るのが難しいが、十分なコミュニケーションや信頼関係を築き、本質を知るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初対面の時は、本音、本心を聞き出しにくいので、苑の基本理念等、施設内容を十分説明し、相互信頼の基本作り、話し合いの場を持つようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、観察。必要な支援を探り出し、十分話し合い、支援の輪を拡げていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来ることを見極め、苑の仕事に参加して、生きていく充実感を味わってもらおう。また、職員は、その仕事に対して感謝の気持ちとねぎらいの言葉掛けに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、「夕照苑だより」や「近況報告」を送り、苑での様子をお知らせしている。行事や記念日には、ご家族とのふれあいの場を持つようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常生活でも、生活歴や交友関係を話題にしてコミュニケーションをとる。 愛用の品物を持ってこられたり、友人が訪ねて来られることもある。	フェイスシートなどで入居前の生活情報を把握している。例えば地域の人と一緒にカラオケ教室にはよく連れて行く。馴染みの人が子どもを連れて遊びに来たり、お茶のお弟子さんが訪ねて来たりするのを歓迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各々の個性に合わせ、新しい仲間作りが築けるよう、座る場所に配慮したり、お互いにねぎらいの言葉かけが出来るよう誘導する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や電話で様子をうかがったり、入院時にはお見舞いに行ったりして連絡をとっている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いを聞き、できる限り本人の希望を叶えるよう努めている。家族の協力を得ることは利用者さんにとって大きな力となる。苑から家族への連絡はほとんどの場合、電話で行っている。	職員は一人ひとりの性格を把握していてもどんな場合でもその人に合わせるように心がけ、大抵の場合意向に沿った支援をしている。1人の重度の利用者との意思疎通はジェスチャーがかなりうまくゆく事が分かった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴を十分聞き取り、利用者を知り、職員全員が情報を共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態に応じた内容の手伝いをしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の方に参加していただき、できるだけプランについて要望を聞き入れ介護プランに反映している。記録の開示をすることで、利用者さんの日々の生活を理解していただけるようにしている。	利用開始時には、ケアマネの情報と家族、医師などの意見要望を入れて作る。家族の情報がかなり実際と違っていた場合などは、入居後の観察を続けて作成した。3カ月毎および状態変化の場合は必ず見直し家族の了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を取るためにプランに番号を付け、プランに沿った記録を取り、職員間で情報を共有するようにしている。介護計画の見直しは、3ヶ月にごとに必ず行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	趣味のカラオケ教室に通っている。利用者の送迎を行ったり、スーパーへの買い物等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で相談やお願いをすることで、地域の方が紙芝居や話相手に来てくださる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は月2回、訪問診療を受ける。体調をくずされるとその都度すぐかかりつけ医に相談。場合より受診に行く。日々利用者が不穏なく過ごしていただくため、必ず認知症専門医を受診する。	日常のかかりつけ医の役割は契約医にしている。専門診療科の場合は、基本は家族対応をお願いしているが、都合がつかない時は職員が付き添う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職不在。 毎朝バイタルチェックを行っている。 利用者の体調不良時には、かかりつけ医に連絡し、指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療チームとの話し合いには必ず参加させてもらっている。 退院時には、ソーシャルワーカーと相談したり、リハビリチームと話し合い、情報をもらい、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、当GHIには、医師、看護師は常駐していないことを説明し、重度化した場合や終末期には対応できないことを理解していただくよう努めている。	利用開始時に「緊急医療の対応と対処について」という文書の中で、終末期の看取りはできない事を明記し、全ての利用者と家族の確認印を貰っている。しかし結果的に死の直前(1カ月前程度)までは事業所で支援していた事が多かった。	年1回の契約更新時に終末期の対応についても話し合い、左記の文書による確認をする事が望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署より訓練や救命訓練を受け、修了証をいただき、実践につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の連絡網には、近隣の方にも加わってもらっている。 協力いただいている近隣の方には、入所者の人数等、現在の状況を把握してもらっている。	職員は消火器、避難経路などを知っておりマニュアルも渡されている。今年はそれを使って避難誘導と初期消火を含む訓練を2回した。1回は消防署立ち会い、1回は独自で夜間想定で行なった。水、食料を3日分備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人記録は、個人情報であるため、利用者の目に触れない場所に保管し、申し送りなども利用者さんの目に触れない所で行うようにしている。	職員は利用者の性格を把握した上で、気持ちを傷つけない言葉遣いをするよう気をつけている。接遇や倫理、個人情報等の研修を順次受講している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望などを引き出すため、さりげなくコミュニケーションを取るようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念である「私らしく」をモットーにしている。1日1日を大切にしたいという願いから、本人の気持ちを尊重し、カラオケ教室や買い物の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室を利用している。利用者さん1人1人が自らそれぞれおしゃれを楽しまれ、身だしなみに気をつけていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフの当番制で行っている。各自、彩りなどを考え、作り方を工夫している。利用者とスタッフが下ごしらえ、器選び、盛り付け、時には味付けまで協働で行っている。利用者とスタッフが一緒に食事を摂っている。	3つのテーブルに職員が1人ずつ入り雑談をしながら一緒に食事を楽む。介助が必要な3名以外は、準備後片づけなどそれぞれ分担して手伝う。外食や行事食も毎月1～2回趣向を変えて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの食事量、水分量、摂取量などを個人記録につけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で義歯の手入れができる方には、毎食後声かけし、消毒している。義歯は夜預かり、翌朝返却する。自分の歯が残っている方についても、毎食後歯磨きを促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ごとに排泄のパターンが異なるので、それぞれのパターンを把握し、日中・夜間を問わず、声かけによる支援をしている。	毎日克明な個人記録をつけていて、その中には排泄の記録があり、それを見て誘導のタイミングなどを決めている。重度の1名は時々失禁するが他はほぼトイレで用が足せる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩など適度な運動をすることで、刺激を与えたり、食事では、できる限り繊維質の食材を摂取したりと、工夫している。朝食時、必ず乳製品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の利用者の状態に合わせている。利用者が希望するときは必ず支援している。柚子風呂、菖蒲風呂など、季節にあったお風呂を用意することで利用者に大変喜ばれている。毎晩の足浴は靴下を履き替えてもらうためにも欠かせない。	基本は全員隔日に入浴を目指しているが、拒否対応がうまくゆかない時もあり2~3日に1回程度である。時間や順番などはできるだけ希望に応じている。全員必ず寝る前に足湯をして貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後に足浴を行うことで、安眠につなげている。 個々の生活習慣や希望に添うよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服用薬は、一覧表にし、薬は薬庫に保管している。 ほとんどの方が食後の服用になっている。眠剤については、時間を決めて服用していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を発揮してもらうため、場面作りをし、「出来た」という喜びを感じてもらえるようにしている。 一般の方と一緒にカラオケ教室に通っておられる方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	苑の前が茶臼山公園なので、散歩に出かけていただくことが多い。また、近所のスーパーへ買い物に出かけたりもしている。 四季折々を楽しんでいただくため、お花見、紅葉狩り、お雛祭りや敬老の日のお祝い食事会など外出援助を行っている。	夏場はあえて控え目にしていたが、今年度の強化テーマは「外出支援」である。「穏やかに暮らして」もらうために外の環境に触れる事は欠かせないと考えて回数を増やす努力をしている。夕照苑だよりの記事にも外出の写真が多い。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、利用者にはお金を持ってもらうことはしていない。 希望があれば、一緒に買い物をして、後日ご家族に支払ってもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人から誕生日にお便りの届く方もおられる。 希望されるときは、電話をかけてさしあげ、声を聞かれることで安心される。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑の前が公園なので、窓から光が差し込み、季節感を味わってもらうこともできる。 お天気の変化が分かり易いので、お天気がくずれてくると、利用者の方が教えてくれる。	リビング兼食堂は見晴らしや採光がよい。余り広くはないが、キッチンに隣接して使い勝手がよい。利用者はここで大半の時間を過ごし趣味、体操、紙芝居、ゲームなどを楽しむ。 テーブルや椅子は用途により簡単にレイアウトが変更できる。トイレや浴室も清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設が手狭なため、利用者同志が仲良く話すことが難しい。 スタッフが間に入って大きな輪になって話していることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた品物などを持ってきていただき、自室に置いていただいている。何でもないカレンダーでも、その景色に故郷を感じて懐かしんでおられたり、犬の好きな方の部屋には犬のカレンダーを掛けたりしている。	個人物の持ち込みを制限している事は全くないが、3室みせてもらった居室は比較的シンプルな造作で、家具類も最小限で整えていた。清掃は行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ほとんどの利用者が、建物の間取りをよく理解されているが、夜間は廊下が暗いとき々部屋が分からなくなったりで不穏になられることがあるので、1F廊下の灯りは一晩中点灯している。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議に当苑スタッフの参加が少ない。	運営推進会議の話し合いの状況をスタッフに伝え、会議の内容を把握してもらう。	運営推進会議の議事録を作成しているので、議事録をスタッフに回覧し、確認してもらう。	3ヶ月
2	6	当苑利用者の中で来訪のない家族との交流が少ない。	家族との交流を持つ。	季節の行事、利用者の誕生日などに必ず声をかけ来訪いただくようお願いをする。	6ヶ月
3	12	終末期の看取りができないことについて、契約時に確認を行っていた。	当苑では、終末期の看取りが出きないことを利用者家族等に理解してもらう。	「終末期の看取りができないこと」について契約時に確認を行うことはもちろんのこと、契約更新時にも、毎年利用者家族等に説明し、確認のうえ、同意書をいただく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。